



# 鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったのです」

## 聖書(ローマ書4章17節)

牧師 河合裕志

アブラハムは「死者に命を与える神」を信じたとはどういうことだろう。これは彼自身のことを言っている。彼は「死者」だった。それは生殖能力がないということで死んだも同然ということだった。

アブラハムに神は子孫を約束していた。しかし待てど暮せど子は与えられない。いつしか彼はおよそ100歳、妻のサラも90歳になってしまった。これでは常識的にみて子を宿すことは不可能なこと。

ところが「彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ」た(18節)。「あなたの子孫はこのようになる」(創世記15章5節)、天の星のように沢山になるよ、との神の言葉に望みをかけた。これってやはりすごい。桁外れた信仰。

なぜそんな信じる心を持つことが出来たのか。それは彼が「存在していないものを呼び出して存在させる神」を深く覚えていた、ということによるのだろう。つまり神は天地の創造者であるということ。「神は言われた、『光あれ』。こうして、光があった」(創世記1章3節)。以下神は次々と言葉を発し呼び出すことによって太陽、月、

星、海、陸、植物、動物、最後に人間を造って行く。この神の創造力、全能の力というものをアブラハムは深くとらえていたということだろう。この延長線上に自分は立っている、この絶望的な状態にある私に神は突破口を開いてくれると信じた。

果してそれはそのようになった。男子、イサクが与えられることになる。まさに死者同然のような者に神は新しい命を与えた。アブラハムの喜びはいかに大きかったことか。

代々の教会が大事に伝えて来たものに「使徒信条」というのがある。これは2世紀に存在が確認される「ローマ信条」に起源するもの。その最初の言葉はこれ。「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず」。

アブラハムはイエス誕生よりずっと昔の人でイエスを信ず、とは言えないが天地の造り主は信じていた。今日に生きる私達にこんな信仰が与えられれば幸い。神を信じて不可能と思われる壁に当って行く。神の助けを頂いてなおもトライして行く。とに角神を信じて最後まで絶望しない。都度新しい力を与えられて行く。そんな一人一人であれば幸い。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時